

北極海航路航行モジュール船の道内初寄港について

苫小牧港管理組合 総務部 港湾振興室 港湾振興課

アジアと欧州を結ぶ最短ルートである「北極海航路」を航行する貨物船が、平成 29 年 6 月 26 日(月)に苫小牧港へ寄港しました。

今回寄港したのは、オランダ船籍のビッグロール・ビューフォート(23,143 トン)で、北極圏のロシア・ヤマル半島で進められている液化天然ガス(LNG)基地建設のため、鉄骨や配管、機器などを組み上げた大型構造物(モジュール)を運搬する貨物船です。

この度、ロシア海域で合流する予定の北極海航路の航行に必要な砕氷船との時間調整と、苫小牧港関係者等との意見交換のため寄港したものです。

北極海航路を運航する貨物船の道内への寄港は初めてであり、これに合わせ船内で、苫小牧港利用促進協議会による歓迎式典と、苫小牧港管理組合が入居するハーバー F ビルにおいて講演会が開催されました。

歓迎式典には、港湾関係者など約 70 人が出席し、

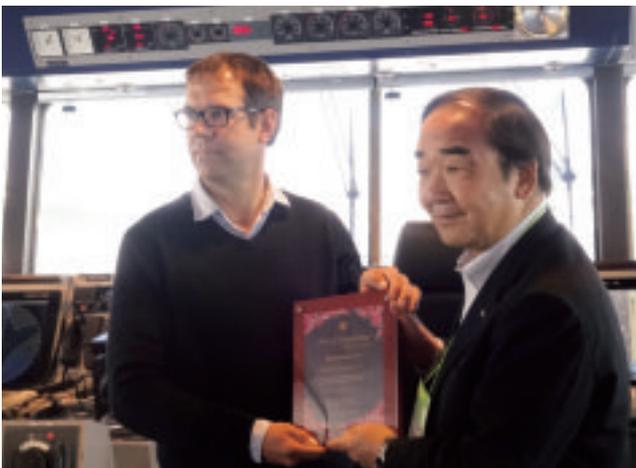
岩倉苫小牧市長は歓迎の挨拶で、「日本と世界経済にとって重要なチャレンジ。苫小牧港としてしっかりと取り組んでいきたい」と述べ、パトリック・マーティン船長に記念盾を贈りました。

講演会では、ビッグロール SHIPPING のパウケ氏により同船の紹介、基地建設に携わる日揮株式会社の植木氏より、基地建設の概要のほか、北極海航路の戦略的活用に向けてなどの説明があり、出席者と活発な意見交換がなされました。

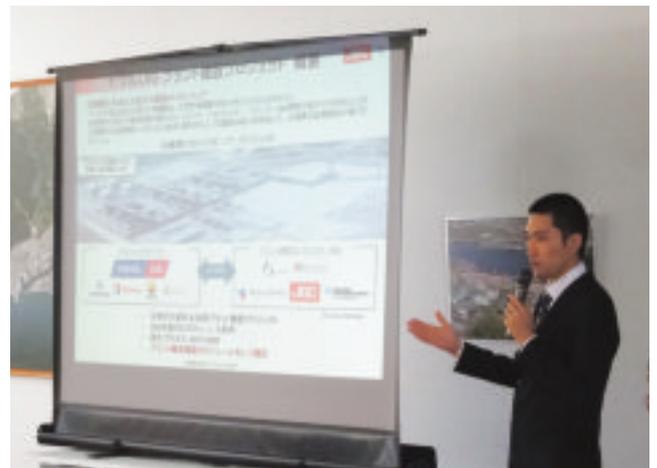
北極海航路の利活用に向け、国や北海道では情報収集や研究成果の共有等を行うほか、北海道経済同友会では課題や戦略などの検討を進めており、苫小牧港管理組合においても、輸送貨物等の調査研究等を進めているところですが、今回のモジュール船の寄港を実績として、北極海の活用可能性についてさらなる検討を進めていきたいと考えております。



接岸の様子



歓迎式典の様子



講演会の様子